

## 特別講演 3

# 口腔顎顔面領域における機能検査の基礎知識

小見山 道

日本大学松戸歯学部  
クラウンブリッジ補綴学講座 教授



### <略歴>

1989年 日本大学松戸歯学部卒業  
1990年 日本大学松戸歯学部 総義歯補綴学講座  
1998年 日本大学 博士(歯学)  
2003年 日本大学松戸歯学部講師  
2003年～2005年 ベルギー王国ルーベンカトリック大学歯学部 客員教授  
2011年～ 日本大学松戸歯学部准教授  
2016年～ 日本大学松戸歯学部教授 顎口腔機能治療学分野  
2021年～ 日本大学松戸歯学部教授 クラウンブリッジ補綴学講座  
日本大学松戸歯学部附属病院 顎関節・咬合科 科長 口・顔・頭の痛み外来 責任者  
  
日本補綴歯科学会指導医 常務理事 代議員  
日本顎関節学会指導医 理事長 評議員  
日本口腔顔面痛学会指導医 理事長 評議員  
日本顎口腔機能学会 副会長, 日本疼痛学会 理事  
日本歯科心身医学会 評議員, 日本慢性疼痛学会専門歯科医 理事  
Asian Academy of Orofacial Pain and Temporomandibular Disorders: Council  
International Association of Dental Research: Neuroscience Group Past President  
International Association for the Study of Pain

## 抄録

歯科における第3の疾患とも言われる顎関節症は、近年、診察、検査を含む国際標準の顎関節症診断基準である Diagnostic Criteria for Temporomandibular Disorders がとりまとめられた。日本顎関節学会においても、一般臨床歯科医師が使用できる顎関節症の標準的な診察、検査、診断および治療の指針作成が急務であると判断し、「顎関節症治療の指針 2018」を刊行し、その後、新たに「顎関節症治療の指針 2020」を改訂版として刊行した。この治療の指針の中には、顎関節症に対して推奨される臨床検査、画像検査を記載しており、顎関節症における、開口距離の検査や咀嚼筋と顎関節の圧痛検査の重要性を記載した。また、保険収載された睡眠時ブラキシズムに対する筋電図検査についても記載してある。

一方、口腔、顔面領域における歯が原因ではない痛みを主に診断、治療する口腔顔面痛に対して、臨床や研究、教育に関連する事業を展開する日本口腔顔面痛学会は、難治性の疼痛や違和感などの症状を診断するための検査に重点を置いている。痛みの研究は、近年、目覚ましく発展し、最近でも新しい知見が発見されており、侵害受容性疼痛、神経障害性疼痛に続く「第三の痛みの機構分類」として「痛覚変調性疼痛」の定義が国際疼痛学会により提案された。口腔顔面痛学会は、こういった痛みの診断に必須の検査として、精密触覚機能検査の保険収載およびその運用に中心的な役割を果たした。この領域においては、複雑な訴えや症状を検査によって客観的に判断し、不安を取り除くことが、患者管理において最も必要な事項と考えられており、今後さらに、咀嚼筋や顎関節の圧痛検査、口臭検査、味覚検査などは、喫緊の保険収載を目指したい検査といえる。

今回、日本顎関節学会と日本口腔顔面痛学会の理事長として、日本口腔検査学会の皆様と一緒に検討すべき、保険収載を目指した口腔顎顔面領域における各種機能検査について情報を共有させていただく所存である。